

<今朝の聖書から>

【ペトロの信仰告白】“神からのメシアです(9:20)”とペトロが返事をしている所から分かるように、今朝の箇所はペトロの“信仰告白”に始まります。私たちは日常的に、“そう思っていること”をまとめて確信をもって言うことを、告白と言っているようです。この箇所で私たちが問われていることは、“それじゃ、あなたは主イエスをなんと告白するか(わきまえ、信じて疑わないか)”ということでしょう。いろいろの機会に、聞いてみますと、結構いろいろの理解があるように思う時があります。“どんな人よりも、素晴らしい私の理解者”と思っている方もありますし、“慰め主”、“癒し主”、いろいろの理解が、言葉を変えて語られているようです。“使徒信条”をはじめとする公同教会の告白に帰るべきなのでしょうが、一番危険なことは“大切な方を表す言葉とは感じているが、はっきりしない”という状況があることでしょう。ですから古来、教会は、主イエスについてどのように理解するかを重要なこととしてきました。“神のような人”であったり“人のような神”であったり、いろいろと解釈されてきました。主イエスはここで、私たちに“あなたは何と理解し、告白するのか”と問うておられるのです。

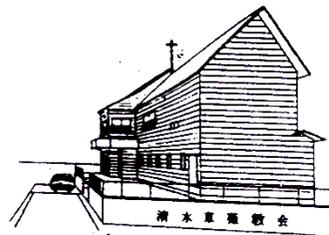
【交錯する情報】何か事件があると、いろいろの噂が行き交います。ネットへの書き込みが自由にできる現代においても同じです。噂が大きな力になってしまふこともありますし、デマのような噂を鎮める力を発揮することもあります。正しい判断力がないと、今朝の箇所に描かれているのと同じようになってしまいます。“群衆は私のことをなんといつているか？(9:18)”という問いに対して、“こんなことを言う人もいます”という情報伝達は、様々なものでした。情報を伝えれば良いのですから、結構気楽に答えられるでしょう。問題は“それではあなたは？”ということです。もう一度、答えを思い出してみましょ。それは、教えられたもの(自分で勝手に作り上げたもの)ではなくて、信頼するに足る事実なのです。

【御国の奥義】“神の子メシヤ”という理解は、如何に弟子たちだけが、正しい理解に至ることが許されていたかを示しています。それはモーゼが再三、群衆の攻撃的にされたのに似ています。他の福音書などからみても、ルカがここでいう群衆というのは、五千人が“主の豊かな食事”に与った直後の出来事ですから、この人たちであったことははっきりしています。弟子たちだけが、如何に神の国の奥義を知ることが許されていたのか、はっきりするのです。

【受難の教団】“日々、自分の十字架を負って(9:23)”と、救いに導きいれられた教会の生き方を、主は選ばれた者達に語られます。十字架の歴史的事実は、一度だけです。だから“日々”という言葉で、ルカが、教会に与えられた救いを語っていることは明らかです。“日々、十字架の出来事があることを忘れず”ということです。教会に対する言葉が続きます。試練に遇った時、それが信仰に関するものだったり、洗礼を受けたのと思った時、“自分の命を、なんとか救いたい(9:24)”と思い、“洗礼はなかったこと”と思い、十字架の救いから離れるのです。“全世界”をいまこそ手に入れた、と思った時に、人は救い主との疎遠という形で、命を失うことのあることは、私たちのよく知っていることです。神の国を見る、主イエスの十字架に、教会は確信を置いているのです。

週報

2011年 3月 27日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリースタジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042